

平成29年度事業報告書

自：平成29年4月1日
至：平成30年3月31日

社会福祉法人尾道のぞみ会

法人本部

【事業報告の概要】

従来、グループホームとして活用してきた県営住宅が消防法の関係により活用ができなくなった。そのため、かねてより新しいグループホームとして整備計画をすすめてきた旭が丘の賃貸物件を、県営住宅に入居されている方用に改修して整備する計画に変更した。急な変更とはなったが、利用者にとっては住環境が大幅に良くなったと考えている。

瑠璃寮と瑠璃の屋形は、利用者が大幅に増え、待機または受入れを一時ストップしている状況にまでなった。大勢の利用者の方に利用していただけることは喜ばしいが、他方でマンパワー不足などの課題も抱えるようになった。

やまとはネギの注文が安定しており、生産性向上のためカットネギ機を整備した。

支援センターは発達障がいがある方の相談も増え、相談内容も多様かつ複雑化しており、専門機関と連携した対応をする等、相談対応に多くの時間を要した。

ヴィータは、事業開始から4年が経過し地域での認知度は向上したが、仕事づくりなどの課題は多い。引き続き継続して取り組んでいく。

【重点取組と成果】

1) 国内外での先進地視察、研修を推進。「先進地に学び、地域で実践」

国外では、今年度もイタリアへ精神保健福祉の取り組みについて学びに行き、歴史も含めて現在の実践活動を知ることによって、自分たちの地域でその学びをどう生かすかを考えてもらう機会をつくった。

国内では、次世代を担う人材を育成するため、良質だと思われる研修には積極的に参加させ、自己研鑽を積ませることによって、質の向上を図った。

2) 利用者、家族及び地域のニーズへの柔軟な対応

障がい当事者のみでなく、家族も含めたトータル的な支援を必要としているケースが増えた。そのため、関係機関との連携を密に図り、時には地域の協力も得つつ、支援を展開した。

講師派遣等も福祉関係機関だけでなく、家族教室や福祉関係以外の行政機関・企業等の勉強会へも講師の要請があり、職員を派遣した。

買い物に困っている地域へは野菜等を持参して販売に伺うなどし、地域の困りごとなどにも対応した。

3) 経営改善

経営改善を図るため、魅力のある環境を整え、利用率80%以上、計画相談件数はヴィータ300件、支援センター400件を目標とした。結果としては瑠璃の屋形、瑠璃寮と希望の家は目標達成となった。他事業所は目標達成とはならなかったが、質の高い支援は保てたと考えている。福祉サービス収入としては法人全体として6%の収入増となり徐々に経営回復しつつある状況である。

【理事会】 理事総数6人

日時	出席者数	監事の出席	議題
H29.5.30	5人	有 (2人)	H28年度事業報告、H28年度決算報告、監査報告、社会福祉充実計画、新役員候補者、役員等の報酬等の総額案、役員等の報酬規程案、定時評議員会の招集
H29.6.14	6人	有 (2人)	理事長の選定、業務執行理事の選定
H29.8.21	6人	有 (2人)	H29年度第1次補正予算、グループホームの新規拠点整備に係る指名競争入札
H29.11.24	6人	有 (2人)	給与規程の一部改正、パートタイマー給与規程の一部改正、やまと運営規程の一部改正、希望の家運営規程の一部改正、理事長・業務執行理事の職務執行状況報告
H30.3.28	5人	有 (2人)	H29年度第2次補正予算、H30事業計画、H30収支予算、管理者の選任、瑠璃の屋形運営規程の一部改正、短期入所運営規程の一部改正、希望の家運営規程の一部改正、給与規程の一部改正、理事長・業務執行理事の職務執行状況報告

【評議員会】 評議員総数7名

日時	出席者数	監事の出席	議 題
H29.6.14	6名	有 (2人)	H28年度事業報告、H28年度決算報告、監査報告、社会福祉充実計画、理事6名の選任、監事2名の選任、役員等の報酬総額の決定、役員等の報酬規程の制定

【評議員選任委員会】 委員3名

日時	出席者数	うち、外部委員の出席	議 題
			開催なし

【人材育成】

職場内研修

- ・虐待防止、権利擁護研修 (5/23、12/5)
- ・イタリア視察報告 (1/30)

職場外研修

- ・尾道市福祉保健施設連絡協議会研修会 (9/27)
- ・広島県医療観察制度地域連絡協議会 (10/31)
- ・年金委員、健康保険委員合同研修会 (11/16、2/22)
- ・民間支援者等地域連携推進会議 (12/4)
- ・採用につなげるための秘訣を学ぶセミナー (12/18)

【関係機関への協力等】

- ・精神保健福祉交流促進協会 理事、実行委員
- ・広島県精神障害者支援事業所連絡会 役員
- ・広島県相談支援従事者研修等の実施に係る検討会 委員
- ・広島県相談支援体制整備事業アドバイザー連絡会議
- ・広島県相談支援従事者初任者研修 講師
- ・広島県相談支援従事者初任者研修 グループリーダー
- ・広島県相談支援従事者初任者研修演習グループリーダー研修 講師
- ・広島県相談支援従事者現任者研修グループリーダー研修 講師
- ・広島県相談支援従事者現任者研修 講師
- ・広島県サービス管理責任者フォローアップ研修 講師
- ・広島県サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者研修 講師
- ・広島県サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者研修グループリーダー研修 講師
- ・広島県サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者研修 グループリーダー
- ・広島県PSW協会初任者研修 講師
- ・市町協議会事務局連絡会議
- ・尾道こころネットよつば会家族教室 講師
- ・尾道市役所職員研修 講師
- ・JC-NETジョブコーチ養成研修 演習トレーナー
- ・広島県医療観察制度地域連絡協議会
- ・尾道市地域自立支援協議会福祉計画部会 委員
- ・尾道市地域自立支援協議会全体会 委員
- ・社会福祉法人あづみの森職場内研修 講師
- ・就労支援基礎セミナー 講師
- ・大崎上島町精神保健福祉研修会 講師

【福祉サービスに関する苦情等解決】

- ・苦情 0件

【その他】

① 実地指導監査

- ・12/22 尾道市実地指導監査:瑠璃寮短期入所事業所

② 施設見学者

- ・高校生を対象とした福祉・介護施設等見学体験バスツアー 19名 (8/1)

瑠璃の屋形

【事業報告の概要】

瑠璃の屋形では、障がいがある方の「働きたい」という想いに寄り添い、一般就労を目指す方には企業実習などの就労支援にも取り組んだ。関係機関からも評価をいただき、就労移行は4名、就労継続B型は10名の新規利用に繋がった。ただ、昨年度に引き続き利用者が大幅に増えたため、工賃の支払額も増大し、作業収支のバランスがとりづらくなった。そのため、工賃規程の改定についてスタッフが集まり意見を交わし、新年度より考課表を盛り込んだ新しい工賃規程を適用することとしている。

また、利用者の希望に添って一般企業への就職や企業実習に送り出すことにも注力した。結果、4名が一般企業に繋がり、2名が定着に至っている。

生産活動については、工賃向上にむけて計画を立案し進行中であるが、収支の改善にはまだ時間を要する見込みである。喫緊の最重要課題として早急に改善を図れるよう取り組んでいきたい。

【重点取組と成果】

1) 就労移行支援事業

一般企業へは4名が就職または実習につながる。そのうち2名が雇用定着に至り、1名は実習中、もう1名は再チャレンジに向けて取り組まれている。今後も一般就職につながるように注力していきたい。

課題としては、就労移行支援事業はサービス利用者が激減していることである。当事業所も平均利用率は24%と低い状況が続いている。理由としては制度的な課題や就労継続A型が増加したことによるものと思われるが、その就労継続A型も近隣市町で経営破綻が続き、存続困難な事業所が多いと聞く。そのため、利用希望者が増えるやもしれないとの見方もある。実際に経営破綻した事業所を利用されていた方から相談が入っている状況もあり、今後も引き続き経過を注視していく必要がある。

2) 就労継続支援B型事業

利用者が大幅に増え、平均利用率は92%となった。日によっては150%近い利用率になることもある。たくさんの方に利用していただけるようになったことは喜ばしいことだが、人が多すぎて仕事の切り出しが難しい状況も発生するようになった。また、従来の工賃規程ではどの作業も同一の工賃額からスタートとなっていたため、比較的ハードルの低い軽作業に参加者が集中し、また作業工賃の支払額が大幅に増え、全体のバランスを欠く事態となった。そのため、工賃規程の見直しを図って新年度から取り組んでいる。

工賃の平均月額額は約17,000円(ただし、複数の日中活動に係る福祉サービスを利用されている方を除く)。今後は20,000円を支給できるように事業の見直しと新規事業への取り組みをすすめていく。

【利用者の利用状況等】

1) 就労移行支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員(人)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6.0
開所日数(日)	24	24	26	25	23	24	25	24	23	23	23	26	290	24.2
月初在籍者数(人)	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	19	1.6
新規利用者数(人)					1		1			2			4	0.3
終了者数(人)	1	1			1		1						4	0.3
月末在籍者数(人)	2	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3	3	19	1.6
延利用者数(人)	57	22	22	23	23	22	25	20	20	45	49	52	380	31.7
1日平均利用者数(人)	2.4	0.9	0.8	0.9	1.0	0.9	1.0	0.8	0.9	2.0	2.1	2.0	15.8	1.3
利用率(%)	43%	16%	17%	17%	17%	17%	18%	15%	14%	33%	41%	38%		24%

サービス終了者の進路

一般就労	法人内の別事業を利用	他法人の事業所を利用	入院	家族と同居	単身生活	その他	合計
2	1					1	4

2) 就労継続支援B型事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員(人)	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
開所日数(日)	24	24	26	25	23	24	25	24	23	23	23	26	290	24.2
月初在籍者数(人)	38	38	38	39	40	42	42	42	43	43	43	43	491	40.9
新規利用者数(人)		1	2	1	2		1	2		1			10	0.8
終了者数(人)		1	1				1	1		1			5	0.4
月末在籍者数(人)	38	38	39	40	42	42	42	43	43	43	43	43	496	41.3
延利用者数(人)	439	474	526	458	461	496	517	503	549	476	510	540	5,949	495.8
1日平均利用者数(人)	18.3	19.8	20.2	18.3	20.0	20.7	20.7	21.0	23.9	20.7	22.2	20.8	246.4	20.5
利用率(%)	83%	86%	100%	83%	84%	94%	94%	95%	99%	86%	106%	98%		92%

サービス終了者の進路

一般就労	法人内の別事業を利用	他法人の事業所を利用	入院	家族と同居	単身生活	その他	合計
	1				1	3	5

【生産活動】

1) 食品部

パンについては将来的なブランド化を図るため、平成29年度は「より安心で、より安全な、より美味しいパン」づくりに力点を置き、品質向上に取り組んだ。徐々にではあるが、お客様からの評価もいただけるようになった。利用者の皆様にも“力”をつけてもらい、生産性を高めて工賃向上に繋がりたいと考えている。

惣菜・食堂については、利用者の昼食と一般のお客様用のランチをつくっている。利用者からは「美味しい、安い」と好評で注文の食数も増えたが、一般のお客様のご来店は少なく、苦戦が続いている。消費税増税による影響もあり、パン・惣菜をあわせた食品部全体での収入は、前年度比で約23%減収となっている。

パンと連携し、新アイテムとしてサンドイッチ等の惣菜パンづくりや、SNSを活用した広報活動などによる周知を図って今後の集客に繋がりたい。

2) 直売市

直売市については、地域との繋がりを重視し、高齢化が進み買い物に困っている地域にも出向き、“地域のお役に立てる”“地域に愛される”ように取り組んできた。しかし、既存のスーパー等が同様の取り組みを始め、競争力では力が到底及ばず、売上等も大幅に減少した。イベント等も過去の反省点を踏まえ、平日開催から土曜日開催に変更したが、集客アップには繋がらなかった。

野菜を出品してくださる生産者の皆様の高齢化もすすみ、以前のように商品が揃わなくなっている状況も一因としてある。早晚、直売市事業の存続について検討が必要な状況であるが、私たちの活動における直売市の存在意義は大きく、あきらめず粘り強く続けていきたい。

【人材育成】

1) 取組内容と成果

10年後、20年後を見据え、次世代を担う人材を育成するため、リーダー養成研修等それぞれの職員のテーマに沿った研修や先進地視察等に機会がある毎に職員を参加させた。すぐに成果に表れるものではないが、こういった一つ一つの積み重ねが、優秀な人材を「人財」に育成・醸成するものだと考えている。

また、各大学や養成校からの実習も積極的に受入れ、福祉の魅力を伝え、業界の底上げに繋がるよう尽力した。

2) 主な研修実施状況、参加状況

- ・ 職場内研修：虐待防止・権利擁護研修(5/23)
- ・ リーダー養成ゼミナール(8/23～8/25、1/17～1/19、3/16)
- ・ 工賃底上げ研修(9/12、10/16、1/15)
- ・ 尾道市地域自立支援協議会講演会(10/7)
- ・ 地域実践のための精神保健福祉講座(11/25)
- ・ 職場内研修：虐待防止・権利擁護研修(12/5)
- ・ 個別支援計画配慮型工賃向上計画策定研修(1/15)
- ・ 職場内研修：イタリア視察報告会(1/30)
- ・ 先進地視察：ライトハウス名古屋(3/8)
- ・ 広島県精神障害者支援事業所連絡会：就労部会、生活部会合同研修(3/23)
- ・ 障害福祉サービス事業者等集団指導研修(3/26)

3) 実習生等受入

- ・ 県立広島大学 現場体験学習 5名(5/12)
- ・ 尾道福祉専門学校 施設見学 11名(5/16)
- ・ 長江中学校 職場体験実習 3名(8/21～8/25)
- ・ 県立広島大学 精神保健福祉援助実習 1名(9/4～9/12)
- ・ 広島福祉専門学校 精神保健福祉援助実習 1名(9/25～10/3)

【各種行事、地域との交流事業等】

- ・ 尾道市人権センター「人権のつどい」(6/3)
- ・ 日東ひまわり(株)「ひまわり鑑賞会」(7/15)
- ・ ワークショップ：いちじくジャム講習会(9/9)
- ・ おのみち福祉まつり(10/15)
- ・ 向島健康まつり(10/21)
- ・ おのみち市民健康まつり(11/19)
- ・ 障害者週間尾道福祉大会(12/4)
- ・ もちつき(12/28)

やまと

【事業報告の概要】

やまと事業所では、新規の利用者獲得に向けて昨年度と同様北部地域の公共機関や病院・相談支援事業所にパンフレットを置いてもらう等して広報活動に努めた。パンフレットの効果や近隣の市でA型事業所の閉鎖があった影響もあり前年度より問い合わせは増えていた。また、農業に力を入れネギの水耕栽培、水稻を行った。寒波の影響もあり冬場にネギが育たなく苦戦をしたが、全体的にはネギ・お米もよく売れていた。地域との交流にも力を入れ、地域の方との交流会を開催したり地域の行事に積極的に参加を行った。

【重点取組と成果】

1) 就労継続支援B型事業

重点取組みとして、昨年と同様に利用率の増加と工賃アップを目指して事業収入の増加に取り組んだ。利用率については、御調町の福祉センター、世羅町、府中市の相談支援事業所、湯が丘病院等にパンフレットを置いてもらう等して広報活動を行った。尾道市北部からの問い合わせは徐々に増えており、新規の利用者も二人入られた。また、利用者からの相談に適宜応じ早めの対応を行い、相談支援事業所や訪問看護との連携を行う等きめ細かな支援は継続して行っており、新規の利用者はあまり増えていないが利用率は微増することができた。事業収入については、ネギ・お米の販路拡充を行い収入増に努めた。

【利用者の利用状況等】

1) 就労継続支援B型事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員(人)	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240	20
開所日数(日)	24	24	26	25	25	24	25	24	23	23	23	26	292	24
月初在籍者数(人)	22	21	21	22	23	24	24	23	23	23	23	24	273	23
新規利用者数(人)			1	1	1						1		4	0.3
終了者数(人)	1						1					1	3	0.3
月末在籍者数(人)	21	21	22	23	24	24	23	23	23	23	24	23	274	23
延利用者数(人)	308	308	336	328	308	308	335	308	302	300	299	357	3797	316
1日平均利用者数(人)	12.8	12.8	12.9	13.1	12.3	12.8	13.4	12.8	13.1	13.0	13.0	13.7	156.0	13.0
利用率(%)	70%	67%	76%	71%	67%	70%	73%	70%	66%	65%	75%	78%		71%

サービス終了者の進路

一般就労	法人内の別事業を利用	他法人の事業所を利用	入院	家族と同居	単身生活	その他	合計
		2				1	3

【生産活動】

1) 軽作業

企業からの下請け作業で、箱折やシール貼等の作業を行った。年明けから今まで作業をいただいていた会社から作業があまり来なくなったが、新たに地元の会社から作業をいただけるようになった。作業収入は少ないが、簡易な作業を好まれる利用者や座ってしか作業ができない方にも出来る作業なので、利用率のアップにつながっている。

2) 食品製造

クッキーの自主製品を製造した。カットネギの注文が好調でクッキーを作る時間があまりなく、以前から売れ行きも芳しくなかったため、注文分を作るのみに縮小して行った。

3) 農業

やまと事業の中心的作業として、例年と同様水稻・ネギの水耕栽培を行った。やはり当事業所職員だけでは水稻の管理等は難しいので、やまと地区の方のご協力を仰ぎながら行った。ネギの水耕栽培は計画的な作付けを行ったが、例年のない寒波だったため、冬にネギが育たなくあまり収穫ができなかった。その影響で他業者が進出し販路が一部縮小してしまった。カットネギの注文は順調で、従来のカットネギ機では対応が難しくなったので生協ひろしま様の助成をいただき、より性能のよい機械を購入した。またお米も不作であったが、地元の農業法人や農家の方から、お米を買うことができ例年通りの出荷量を確保することが出来た。

4) 所外作業

尾道市、尾道バスより委託を受けて市有地等の清掃・草刈りを行った。市の要請もあり草刈りの回数が増えた現場もあったが、柔軟に対応した。怪我をされる利用者もいなく無事に作業を遂行できた。

【人材育成】

1) 取組内容と成果

広島県精神障害者支援事業所連絡会主催の職員基礎研修に職員を派遣し、病気や制度についての知識を深めることができた。また、一泊研修旅行を行い、他事業所を見学することによりやまと事業所の今後の方向性の参考にさせていただいた。併せて、職員・利用者のモチベーションを高めることもできた。広島県障害者虐待防止・権利擁護研修に職員を参加させ、利用者への虐待防止・権利擁護に努めた。

2) 主な研修実施状況、参加状況

- ・ 広島県精神障害者支援事業所連絡会 役員会 2ヶ月に1回開催 述べ職員6名
- ・ 尾道市自立支援協議会 2ヶ月に1回 延べ職員5名
- ・ 7月18日 広島県相談支援従事者研修 講師として1名派遣
- ・ 7月31日 広島県・広島市との懇談会 職員1名
- ・ 10月9日 あいサポートふれあいコンサートに演奏者として参加(やまとから職員1名、利用者1名)
- ・ 12月6日 広島県精神障害者支援事業所連絡会主催 職員基礎研修 職員2名
- ・ 12月20日 広島県障害者虐待防止・権利擁護研修 職員1名
- ・ 1月11日～12日 広島県サービス管理責任者研修(福山会場) グループリーダーとして1名派遣
- ・ 3月26日 広島県集団指導者研修 職員1名

3) 実習生等受入

- ・ 各学校からの実習の申し込みはなかった。

【各種行事、地域との交流事業等】

- ・ 4月6日 花見 伯方島 開山公園
- ・ 5月17日 ボランティア団体コスモスとの交流バーベキュー
- ・ 7月8日 やまと地区交流会(福島ひまわり里親プロジェクトと合同)
- ・ 8月5日 母子支援センターエスポワールとの交流会
- ・ 8月5日 福島ひまわり里親プロジェクト ひまわり花見
- ・ 8月14日 やまと地区盆踊り大会
- ・ 8月19日 福島ひまわり里親プロジェクトとの交流会
- ・ 9月13日～14日 やまと一泊研修旅行 香川県
- ・ 9月30日 福島ひまわり里親プロジェクトとの交流会
- ・ 10月15日 大和公民館祭り 参加
- ・ 10月28日 御調健康祭り 参加
- ・ 12月25日 クリスマス会
- ・ 12月28日 餅つき大会
- ・ 1月20日 新年会
- ・ 2月1日 節分・豆まき

瑠璃寮

【事業報告の概要】

宿泊型（定員20名）では、新規利用者10名、前年度15名であったため5名減であった。新規利用者の内、利用前が精神科病院入院中の方が6名と依然多くを占め、退院先として生活訓練を利用し社会復帰を希望される方が多い。

サービス終了者は12名。昨年度11名であったため、ほぼ同数。終了後の進路は、グループホーム7名、単身生活2名、入院2名、その他1名という内訳であった。入院をされた2名とも精神不安定によるもので、原因と考えられる服薬管理や不調時の対応に課題を残す形となった。その他1名についても入所前のアセスメント不足が原因と考えており、利用されるご本人が希望しているか、利用目的・目標・課題・支援体制、病識の有無など事前の確認作業の重要性を感じた。

進路先として依然多くの方がグループホームを希望されている。少人数（5名～7名）での共同生活に加え最低限のサポートが確保されていること等が安心感につながっており、今後も利用希望者は増えていくと思われる。

通所型・訪問型（定員：20名）では、新規利用者12名、サービス終了者12名と同数であった。新規利用者のほとんどは昨年度と同様に宿泊型利用者であり、通所型のみを利用されていた2名とも29年度中に卒業を迎えた。いずれも別の通所先を確保することができた。

利用率は、宿泊型が87%（月平均17.4名）、通所・訪問型が43%（月平均8.5名）といずれも数字を伸ばすことができた。特に宿泊型の利用希望者は多く、一時満室となり体験利用ができない期間があった。空き部屋ができた時点で体験利用を受け入れたため、その後正式利用までに時間がかかってしまう事態が生じ、新規相談から正式利用までの進め方について整理が必要である。

全体的には、有期限サービスの中で利用率を一定水準で維持することができたことは成果として捉えており、今後おも継続できるよう日頃の支援と連携を大事にしていきたい。

【重点取組と成果】

1) 宿泊型生活訓練事業

昨年度同様、医療機関や相談支援事業所等との連携に重点を置き、利用者の状況共有とともに目標確認や修正を行った。また、訪問看護の活用や診察への同席支援などを状況に合わせて行うことにより再発・再入院の防止を図った。しかし、2名が病状悪化により入院してしまい、課題を残した。

新規相談や問い合わせは常に受けられる体制とし見学も随時対応を行った。しかし、体験利用は希望者多数により順番を待っていただいたり、部屋の空きがないため一時体験利用自体が出来ない状態となったため、今後は対策を考えたい。

瑠璃寮を卒業され、グループホーム（共同生活援助）へと転居された方は7名おられ、希望の家と連携し入居サポートと入居後の支援のフォロー体制強化に努めた。しかし、今後ますます増えていくであろうグループホームの利用希望者に対し、空き室がなく利用する事業所が見つからないという課題が現在生じている。地域へと送り出す役割がある瑠璃寮としては、グループホームの増設や確保においてもできる限り協力していきたい。

利用率では、1日平均17名以上（利用率85%）を目標としていたが、1日平均17.4名（利用率87%）という結果となり、目標達成することができた。今後も維持向上に努めていきたい。

重点項目の一つとして、老朽化に伴う環境整備や防犯対策を挙げていたが、防犯カメラの設置、各居室ベッドの一部入れ替え、倉庫の改修、訓練室畳の張り替え、事務所内金庫の追加購入、車両1台の入れ替え（広島県共同募金会により助成）を行った。

2) 通所・訪問型生活訓練事業

通所型では、活動プログラムの内容を利用者の状況やニーズに応じ随時見直しを行い、充実を図った。

社会資源を積極的に活用することで、社会生活上のスキルやマナーを習得する機会を作った。特に買い物や外出は、車両からバス移動に変更することで、休日に利用者同士で外出や買い物を楽しまれたり、余暇の充実にもつながっている。

レクリエーションを2ヶ月に1回以上のペースで行い、利用者同士の交流を深めることができた。瑠璃寮だけに限らず、ボランティアや他事業所（他法人）の利用者と交流する機会を多く設け、交流の幅を広げることができた。

通所型を卒業された12名の内、8名の方が、就労系事業所へとステップアップされた。残念ながら途中で入院などで退所された方もおられたが、多くの方が希望どおりの進路に進めることができた。

訪問型では、1名の方を宿泊型卒業後に継続的に訪問をすることで地域定着支援を行い利用終了後も地域生活を続けられている。

3) 短期入所事業

新規契約者は11名。利用日数は、昨年度26件（延べ129日）に対し29年度は33件（延べ282日）と多くの方に利用していただくことができた。

短期入所を利用し体験利用を行う方もおられ利用の幅が広がっている。体験利用以外では、自立の一步として毎月定期的に利用される方、家庭や身体的な事情で利用される方、家族と距離を置くために利用される方、など利用目的は様々であった。状況に応じて送迎サービスや入浴介助など支援の充実に努めた。栄養士は配置していないが、調理員を配置することで食事（特に夕食）は満足していただいた。今後も利用ニーズに応じて常時受入ができる体制を継続していきたい。

【利用者の利用状況等】

1) 宿泊型生活訓練

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員（人）	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240	20
開所日数（日）	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	30
月初在籍者数（人）	19	18	17	17	17	18	19	17	17	16	14	18	207	17
新規利用者数（人）	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	4	1	10	1
終了者数（人）	2	1	1	1	0	0	2	0	1	2	0	2	12	1
月末在籍者数（人）	18	17	17	17	18	19	17	17	16	14	18	17	205	17
延利用者数（人）	560	544	540	558	540	570	585	510	495	446	461	547	6356	530
1日平均利用者数（人）	18.7	17.5	18.0	18.0	17.4	19.0	18.9	17.0	16.0	14.4	16.5	17.6	209.0	17.4
利用率（％）	93%	88%	90%	90%	87%	95%	94%	85%	80%	72%	82%	88%		87%

サービス終了者の進路

グループホーム	家族と同居	単身生活	入院	その他	合計
7		2	2	1	12

2) 通所・訪問型生活訓練

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員（人）	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240	20
開所日数（日）	22	23	22	23	23	22	23	22	23	23	20	23	269	22
月初在籍者数（人）	17	17	16	16	17	17	17	15	15	14	15	18	194	16
新規利用者数（人）	2	0	1	1	1	1	0	0	0	1	4	1	12	1
終了者数（人）	2	1	1	0	1	1	2	0	1	0	1	2	12	1
月末在籍者数（人）	17	16	16	17	17	17	15	15	14	12	18	17	191	16
延利用者数（人）	189	184	209	189	197	206	207	174	164	148	186	229	2282	190
1日平均利用者数（人）	8.6	8.0	9.5	8.2	8.6	9.4	9.0	7.9	7.1	6.4	9.3	10.0	102.0	8.5
利用率（％）	43%	40%	48%	41%	43%	47%	45%	40%	36%	32%	42%	50%		

サービス終了者の進路

一般就労	法人内の別事業を利用	他法人の事業所を利用	入院	家族と同居	単身生活	その他	合計
0	5	3	1	0	0	3	12

3) 短期入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
開所日数（日）	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	30
実利用者数（人）	1	3	4	4	3	5	4	2	2	2	1	2	33	3
延利用者数（人）	6.0	20.0	46.0	15.0	42.0	45.0	44.0	36.0	4.0	12.0	3.0	9.0	282	24
利用率（％）	20%	65%	153%	48%	135%	150%	142%	120%	13%	39%	11%	29%		77%

【人材育成】

1) 取組内容と成果

前年度同様、活動や個別対応など利用者に関わる時間を増やし「利用者から学ぶ」意識を持ち、実践経験を積むことに重点を置いた。利用者の状況に応じ、スタッフミーティング等で随時対応を協議できる体制とした。また、経験が浅い職員には日頃関わりがある医療機関や相談支援事業所などと連携を取ることで、ケースを通して経験値を重ねることができた。

研修会には職場内外を含め積極的に参加をした。全国規模での生活訓練に特化した研修がなく残念であったが、今後も機会があれば参加をしたい。

虐待防止研修には職員全員参加し日頃の対応を振り返りと障害者虐待防止の理解を深めサービス向上に努めた。

事業所見学は候補地を絞れず実施することができなかつたため、30年度は是非実施したい。

2) 主な研修実施状況、参加状況

5月18日、自立支援協議会定例会1名出席
5月23日、職場内研修（虐待防止） 3名参加
7月 28日、自立支援協議会定例会1名出席
8月2日、エメラルドの会役員会1名出席
8月19日、救急対応研修1名参加
8月25日～26日 リカバリー全国フォーラム1名参加
9月21日、尾道市自立支援協議会定例会1名出席
9月21日、尾道市障害者週間尾道福祉大会ワーキング1名出席
10月19日、尾道市自立支援協議会生活支援部会1名出席
10月31日、広島県医療観察制度地域連絡協議会1名出席
11月2日、障害者週間尾道福祉大会全体会1名出席
11月2日、尾道市福祉計画策定委員会1名出席
11月16日、尾道市自立支援協議会定例会1名出席
12月5日、職場内研修（虐待防止） パート含め6名参加
12月20日、虐待防止研修（広島県主催） 1名参加
12月21日、広島県共同募金会（NHK歳末たすけあい助成） 交付式管理者出席
12月22日、短期入所実地指導（尾道市）
1月23日、社会福祉法人すばる（府中） 職員4名見学
1月25日、尾道市福祉計画策定委員会1名出席
1月30日、職場内研修（イタリア視察研修報告会） 2名参加
2月2日、エメラルドの会新年交流会1名参加
2月15日、自立支援協議会生活支援部会1名出席
2月21日、人材確保に関する検討会議【職場内】 1名出席
3月7日 人材確保に係る検討会議（職場内） 1名出席
3月15日 新卒向け就職フェア1名参加
3月22日 尾道市福祉計画策定委員会1名出席
3月23日 広島県精神障害者事業所連絡協議会生活支援部会1名参加
3月23日 尾道市福祉施設連絡協議会ボーリング1名参加
3月26日 広島県集団指導研修1名参加
3月27日 尾道市自立支援協議会定例会1名出席
3月29日 人材確保に係る検討会議（職場内） 1名出席

3) 実習生等受入

広島県立大学学生1名、1日体験学習のため受け入れ（5月12日）
9月11日～9月30日（16日間）日本福祉大学より実習生1名受け入れ
10月10日～10月27日（16日間）日本福祉大学より実習生1名受け入れ
2月26日、ボランティア1名受け入れ

【各種行事、地域との交流事業等】

4月6日、法人合同花見 利用者7名、職員1名参加。
5月17日、コスモス主催バーベキュー 利用者11名、職員2名参加
6月28日、レク「広島空港へ」 利用者9名、スタッフ2名参加
8月30日、レク（尾道市立美術館へ） 利用者9名、スタッフ2名参加
9月30日、広島県精神障害者支援事業所連絡会主催交流会 利用者4名、スタッフ1名、実習生1名参加
10月9日、あいサポートふれあいコンサート（ルーリーズ出演の応援） 利用者5名、スタッフ1名参加

10月20日、レク（因島フラワーセンターにて写生会） 利用者6名、スタッフ1名参加
10月21日、ソフトボール交流大会（雨のため中止）
10月7日、尾道市自立支援協議会主催講演会へ利用者4名、スタッフ1名参加
11月29日、コスモスクリスマス会 利用者10名、スタッフ2名参加
12月4日、障害者週間尾道福祉大会 利用者2名、スタッフ1名参加
12月20日、ふくやま美術館へ 利用者4名、スタッフ1名参加
12月28日、もちつき大会（法人行事） 利用者・スタッフ全員参加
1月4日、初詣（千光寺）・昼食（かっぱ寿司） 利用者6名、スタッフ2名参加
3月14日 青山病院交流会 利用者7名 スタッフ2名参加
3月24日 よつば会交流会 利用者7名 スタッフ1名参加

希望の家

【事業報告の概要】

居住確保の為、平成29年12月に定員16名を18名定員に増員。空いている居室を改修工事し、TAKEYA定員6名を7名定員、シェアハウスゆい定員5名を6名定員とした。また、県営住宅を利用し5名定員でグループホームとして運営していたが、消防法の改正により、非現実的な消防設備の設置が必要となり、県営利用を断念。準備していた新しいグループホーム旭ヶ丘へ全員転居することとした。利用実績では、本人希望で退所手続きを実施した方が1名いたが、結果利用継続。その後、精神的不安より2月中頃から現在まで入院中。他に、2月に体調不調を訴えて通院・受診同行をしていたが、室内で亡くなっていた方が1名。死因は肺炎であった。現在の利用実績は17名。空室は見学希望の利用者がある為、満所となる予定。

【重点取組と成果】

1) 共同生活援助事業

居住確保のため、旭ヶ丘に一軒家を借り、グループホームの開所準備を行った。県営住居利用者5名の転居に伴う手続き、引っ越しなどの支援実施。精神障がいの方は、環境の変化に弱い為、転居後も安定した生活が出来る様、事前に様々なフォローを行った。その為、大きな変化なく生活を送る事が出来た。日々の業務記録を職員全員で把握し利用者対応に活かしており、必要時には振り返りをして、個別支援計画のもと支援を行っている。結果、各々の自立度が上がり、個々の目標達成につながっている。

【利用者の利用状況等】

1) 共同生活援助事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員(人)	16	16	16	16	16	16	16	16	18	18	18	18	200	17
開所日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	30
月初在籍者数(人)	15	16	16	16	16	16	16	16	17	18	18	17	197	16
新規利用者数(人)	1								1				2	0
終了者数(人)											1		1	0
月末在籍者数(人)	16	16	16	16	16	16	16	16	18	18	17	17	198	17
延利用者数(人)	442	471	480	481	425	410	474	480	526	546	472	493	5700	475
1日平均利用者数(人)	15	15	16	16	14	14	15	16	17	18	17	16	187	16
利用率(%)	92%	95%	100%	97%	86%	85%	96%	100%	94%	98%	94%	88%		94%

サービス終了者の進路

他の福祉事業を利用	家族と同居	単身生活	入院	その他	合計
				1	1

【人材育成】

1) 取組内容と成果

- ・日々、職員、世話人で、利用者対応の振り返り実施し利用者支援に活かすことができた。
- ・研修に積極的に参加し、利用者の支援対応に反映する事が出来た。
- ・緊急時の対応検討し実践で活かせる内容での避難訓練を実施し、緊急時対応に備えることが出来た。

2) 主な研修実施状況、参加状況

- ・自立支援協議会
- ・生活支援部会
- ・サービス管理責任者研修
- ・救急対応技術研修
- ・発達障害関連研修
- ・感染症予防研修
- ・障害者虐待防止・権利擁護研修
- ・就労・生活部会研修
- ・クレーム対応研修

3) 実習生等受入

- ・なし

【各種行事、地域との交流事業等】

- ・各ホームで、シティークリーニング参加。
- ・精神保健ボランティアコスモス主催、やまとBBQ
- ・精神保健ボランティアコスモス主催、クリスマス会
- ・各ホーム、自主避難・消火器訓練及、あらゆる災害を想定した講習会。
- ・精神障害者支援事業所連絡会の交流会:果物狩り
- ・ホーム外食行事・焼肉食べ放題

H29年度 地域生活支援センターり 事業報告

【事業報告の概要】

相談支援事業

1. 尾道市より委託を受け、尾道市障害者サポートセンターはな・はなへ職員2名を派遣し、主に精神障がいのある方の相談支援業務や、地域自立支援協議会事務局としての業務を行った。相談支援業務については、前年度対比で相談者数・相談件数ともに減少となったが、これまで福祉サービスを利用したことがない方や発達障がいに関する相談もあり、相談内容も多様かつ複雑化しており、専門機関と連携した対応をする等、相談対応に多くの時間を要した。地域自立支援協議会については、事務局担当として運営に携わりつつ、専門部会である生活支援部会を担当し、事業所間の情報交換や避難所運営の模擬体験を行う学習会の開催、ヘルパー事業所懇話会等を開催した。

2. 指定計画相談支援について、計画相談支援については、契約者数と請求件数は前年対比でほぼ横ばいとなり、新規のサービス利用支援よりも継続サービス利用支援の頻度が多くなった。また、計画相談支援の充実と推進のため、サービス担当者会議の実施を適宜行い、サービス提供事業所との連携強化を行った。相談支援の質の向上として、地域自立支援協議会の専門部会である相談支援部会に参画し、事例・研修ワーキンググループのメンバーとして協力、事例検討会に参加し、相談支援の質の向上を図った。地域移行・地域定着支援については、該当事者からの依頼がなく、契約者数と請求件数は0件となった。

地域活動支援センター I 型事業

1. 登録者は37名(平成29年3月末時点)となり、前年度比でほぼ横ばいとなった。各種プログラム活動では、パソコン教室やパステルアート教室への参加者が多く、講師を招いたプログラムの人気が高った。また、パソコン教室やパステルアート教室については、地域の方々にもご利用いただいております。障がい当事者との交流の場、啓発といった効果をもたらした。また、障がい当事者が主体(主役)になるように活動を押し進めていくため、障がい当事者によるミーティングである「ピア・カウンセリング学習グループ」を開催した。今後も、障がい当事者の相互の経験を分かち合えるプログラムを取り入れながら、エンパワメントを図ることに繋がる活動に注力していきたい。精神障がい者の地域移行の一環としては、青山病院との交流会にピアスタッフ派遣し、交流活動を行った。

【重点取組と成果】

1) 相談支援事業

尾道市障害者相談支援事業等について

- ・本年度の集計として、相談者数が567名、相談件数が1,567件となり、障害種別としては、約65%が精神障がいのある方となった。前年度比で、相談者数は107名減、相談件数は115件減となったが、これまで福祉サービスを利用したことがない方や発達障がいに関する相談もあり、相談内容も多様かつ複雑化しており、専門機関と連携した対応をする等、相談対応に多くの時間を要した。
- ・地域自立支援協議会の運営やその専門部会である生活支援部会の事務局としての活動を通じて、ヘルパー人材不足・災害時の対策・医療的ケアの必要な障がいのある方への支援等の地域課題を抽出することができたが、課題解決に向けての方向性が見いだせていない状況があり、地域自立支援協議会の活性化や機能強化を図っていく必要性を感じた。
- ・求められているサービス量に対して、マンパワーが不足している。尾道市に状況等を報告しながら、マンパワーの充足を図っていただけるようお願いをした。

計画相談支援、地域移行・地域定着支援について

- ・計画相談支援については、108名(内契約終了者13名)と契約し、指定計画相談支援事業の請求件数は341件/年(サービス利用支援 108件/年、継続サービス利用支援 233件/年)となり、年度目標の400件/年の達成に至らなかった。
- ・地域移行・地域定着支援については、該当する依頼がなかったため地域移行支援計画等の作成に至らなかったが、今後も地域のニーズを把握しながら、該当するケースについて関係機関と連携を図っていく。
- ・事例検討会や障がい特性に関する研修へ参加することで、職員のスキルアップに繋がられた。本年度は発達障がいに関する研修に積極的に参加し、発達障がいのある方への相談支援スキルの向上が図れる取り組みを行なった。

2) 地域活動支援センター事業

- ・地域活動の拠点としての機能強化を図っていくため、事業所の移転を検討することとしていたが、利便さ、設備、経費等に見合う物件がなく、施設の移転には至らなかった。

【利用者の利用状況等】

1) 委託相談支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
開所日数(日)	20	20	21	20	19	21	21	20	20	19	19	21	241	20
相談者数(人)	52	45	51	47	43	55	53	44	43	40	43	51	567	47
相談件数(件)	137	132	118	143	154	124	108	121	125	122	123	160	1567	131

相談方法

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
電話	101	95	85	93	115	74	72	73	77	81	89	101	1056	88
訪問	19	19	17	30	23	22	14	25	27	19	18	35	268	22
来所	11	7	10	11	8	19	18	12	10	11	10	14	141	12
FAX	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
メール	0	1	0	1	1	2	0	7	2	8	0	5	27	2
同行	3	8	3	8	7	6	4	4	8	2	6	1	60	5
その他	3	1	3	0	0	1	0	0	1	1	0	4	14	1
個別ケア会議	2	0	5	8	1	7	1	2	2	2	3	4	37	3

障害種別(手帳)

身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	重複	なし	不明	合計
4	42	367	12	49	74	19	567

相談内容

福祉サービスに関する相談	社会資源に関する相談	社会生活力に関する相談	権利擁護に関する相談	専門機関の紹介・調整	合計
547	411	2149	30	2133	5270

障害支援区分認定調査委託事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
調査件数(件)	1	0	0	0	2	0	0	0	1	1	1	0	6	1

計画相談、地域移行・地域定着

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
計画相談件数(件)	39	28	33	27	19	33	27	30	25	25	23	32	341	28
地域移行等件数(件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2) 地域活動支援センター事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
開所日数(日)	24	24	26	25	23	24	25	24	23	23	23	26	290	24
利用契約者数(人)	37	37	38	38	37	36	36	37	37	37	37	37	444	37
延利用者数(人)	124	126	97	93	82	83	76	61	77	85	92	92	1088	91
1日平均利用者数(人)	5.2	5.3	3.7	3.7	3.6	3.5	3.0	2.5	3.3	3.7	4.0	3.5	45.1	3.8

プログラム内容と参加者数

活動内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
休憩	95	91	68	60	57	54	41	36	39	44	61	62	708
ピア・カウンセリング学習会	4	5	3	3	1	3	3	1	1	2	2	2	30
バンド活動	8	7	13	12	8	14	8	12	14	9	11	12	128
書道サークル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
絵手紙サークル	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	3
パソコン教室	11	15	13	14	13	11	10	7	12	21	19	16	162
パステルアート教室	4	5	5	4	3	3	3	4	6	3	5	5	50
カフェまでウォーキング	2	0	2	0	0	0	0	0	3	0	2	0	9
茶話会	12	10	10	6	9	9	6	5	8	11	10	9	105
青山病院交流会												2	2
ソフトボール交流会								4					4
クリスマス会									0				0

【人材育成】

1) 取組内容と成果

- ・広島県相談支援従事者研修にグループリーダーとして職員を派遣した。グループリーダーの立場を経験することで、ファンリテーションやスーパーバイズ等に関する学びや気づきが得られる機会となり、相談支援専門員としてのスキルアップに繋がられた。
- ・広島県主催の発達障がい基礎研修に職員を派遣した。発達障がいに関する特性などの基礎的な内容を学ぶ機会となり、その後に開催された発達障害者支援スキルアップ研修にも職員を派遣し、発達障がいのある方への相談対応を学ぶ機会となり、職員のスキルアップに繋がられた。

2) 主な研修実施状況、参加状況

- ・H29年度 発達障がい基礎研修(5/25)
- ・H29年度 発達障がい支援スキルアップ研修(6/21, 27, 28)
- ・はな・はな主催 発達障がい支援研修(12/6)
- ・H29年度 広島県相談支援従事者初任者研修 福山会場(8/29, 30, 31) ※演習グループリーダー
- ・H29年度 広島県相談支援従事者現任研修 (2/5,6, 7) ※演習グループリーダー
- ・イタリア地域精神保健視察ツアー(11/20～11/29)

3) 実習生等受入

次世代の精神保健福祉従事者の養成は、今後の福祉業界の重要な課題でもあり、当センターでも実習生の受入を行っていたが、本年度については、業務上の都合により、実習生を受け入れることができなかった。

【各種行事、地域との交流事業等】

地域の方々との交流を図る目的で、プログラムの一部を開放した。地域の方々の来所は、延べ35名となった。障がい当事者と一緒に参加することで啓発に繋がった。

ヴァータ

【事業報告の概要】

平成29年度は、平成28年度の振り返りを踏まえ、地域に密着した形で各事業を展開した。特に就労継続支援B型事業においては、農福連携を踏まえ地域でのつながり・活動をより意識して事業を展開した。

各事業所職員は、サービスの質の向上に努めるべく、研修にも積極的に参加をし、そこで学び得たツールを利用し、課題の抽出と改善に取り組んだ。結果、就労継続支援B型事業所においては、成果が数字に比例している。他の事業所においては、実績数でみると入院や他事業所の利用に伴い終結、福祉サービスの利用が終了したため計画相談支援を終結するという方が相次ぎ減少した。しかし、地域とのつながりは強く構築された。

【重点取組と成果】

1) 相談支援事業

相談支援専門員として、配置しているのは1名である。平成29年度は、発達障害支援に特化し、研修に励んだ。その結果、利用者の利用状況等に記載しているとおり、基本相談支援に係る件数は増加している(平成28年度の相談内容総数は、1154件であり、約1.8倍となっている)。

計画相談支援事業の請求件数は161件。平成28年度よりも5件減少となっている。減少した要因として、1点目は、基本相談支援による利用者の安定に伴い計画変更の減少(福祉サービスの定着)である。2点目は、福祉サービス利用終了者(死亡含む)が重なったことが挙げられる。

事業収入面では、請求件数が減ることで減額に直結するため課題として挙がるが、一方で計画変更数が少ないということは、利用者に対し適切な支援が行えているという成果でもある。

2) 通所・訪問型生活訓練事業

当事業は、平成26年4月より瑠璃寮の従たる事業所として因島の地で始まった。開始当初は緩やかではあるが新規利用者の獲得が出来ていた。しかし、年々新規利用者の獲得が課題となり、平成29年度においては、新規利用者が0名に対し、終了者が5名という状況。そのため、事業の継続有無について協議を重ね、新規受け入れを中止し、終結の方向で活動することとなった。

事業のスリム化を考え、動き始めたところ、新規利用の希望者や以前関係者からご相談のあった利用者の方が具体的に話を進めたい…と2年越しの利用を希望されるなど重なった。結果、再度事業所内で協議を行い、新規の受け入れを行うこととなった。平成29年度中には新規の利用者として計上は出来ていないが、緩やかに体験利用を重ね平成30年度には新規利用者2名をすでに獲得している。

3) 就労継続支援B型事業

平成29年度事業計画においては、利用者へお渡しする工賃一月当たりの平均金額が3000円以上になるよう創意工夫に努める、としていた。これについては、5000円以上お渡しが出来たため目標は達成したと言える。しかし、社会保障の観点や事業経営の観点から鑑みると工賃一月当たり平均金額10,000円以上はお渡ししたいところである。

まず、上記の金額をお渡し出来た背景として、平成28年度において指定基準に定められる最低工賃月額3,000円を割り込んでしまった。そのため、広島県健康福祉局障害者支援課自立・就労グループより『工賃底上げ研修』に参加するよう指導があった。この受講を機に『工賃向上に必要な視点と知識』について学び、その内容を職員間で共有した。研修で学び得たことをまずは行動に移すということで成果に繋がっていったと解釈する。具体的には、自主製品部門の発想の展開や代行作業に係る価格の見直しについて精査を行った。また、以前より行っている『当事者が主体』『当事者が力をつける』『当事者のストレンクス(強み)』といった視点をもって支援・作業提供を行った。代行作業においては、従事者の自信回復にもつながり意欲的に作業通所が行えるようになっている。

また、平成29年度は、地域課題を抽出し、地域資源を有効活用しながら事業を展開していくことに努めた。特に農福連携に関しては、地域の方のご理解あつてのことであり、大変心強かった。

【利用者の利用状況等】

1) 相談支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
開所日数(日)	20	20	21	20	19	20	21	20	20	19	19	21	240	20
相談者数(人)	31	33	34	34	31	38	37	29	26	26	31	35	385	32
相談件数(件)	222	213	147	170	186	160	169	196	164	235	146	152	2160	180

相談方法

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
電話	176	163	106	113	142	102	122	164	127	191	115	116	1637	136.4
訪問	22	22	22	22	19	29	22	15	17	24	19	28	261	21.75
来所	13	10	11	18	11	18	20	15	10	8	8	2	144	12
FAX	0	4	5	2	0	0	0	0	0	1	0	0	12	1
メール	3	5	3	5	8	7	3	1	6	11	0	2	54	4.5
同行	8	9	0	5	6	4	2	1	4	0	4	3	46	3.8
その他	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	1	6	0.5
個別ケア会議	3	2	10	4	4	5	5	2	2	4	2	3	46	3.8

障害種別(手帳)

身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	重複	なし	不明	合計
1	6	39	3	1	1	1	52

相談内容

福祉サービスに関する相談	社会資源に関する相談	社会生活力に関する相談	権利擁護に関する相談	専門機関の紹介・調整	その他	合計
1648	16	427	34	49	0	2174

障害支援区分認定調査委託事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
調査件数(件)	3	2	1	2	1	3	1	1	3	4	1	6	28	2.3

計画相談

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
計画相談件数(件)	11	10	18	14	12	18	12	13	13	14	10	16	161	13

2) 通所・訪問型生活訓練事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員(人)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72	6
開所日数(日)	20	20	21	20	19	20	21	20	20	19	19	21	240	20
月初在籍者数(人)	8	7	7	6	5	5	5	5	4	4	4	3	63	5
新規利用者数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
終了者数(人)	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	5	0
月末在籍者数(人)	7	7	6	5	5	5	5	4	4	4	3	3	58	5
延利用者数(人)	71	64	51	41	37	41	43	36	31	19	23	9	466	39
1日平均利用者数(人)	3.6	3.2	2.4	2.1	1.9	2.1	2.0	1.8	1.6	1.0	1.2	0.4	23.3	1.9
利用率(%)	54%	46%	39%	30%	27%	31%	31%	27%	22%	14%	19%	7%		29%

サービス終了者の進路

一般就労	法人内の別事業を利用	他法人の事業所を利用	入院	家族と同居	単身生活	その他	合計
0	2	2	1				5

2) 就労継続支援B型事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
定員(人)	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14
開所日数(日)	20	20	21	20	19	20	21	20	20	19	19	21	240	20
月初在籍者数(人)	8	10	10	10	10	10	9	11	11	10	10	10	119	10
新規利用者数(人)	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4	0
終了者数(人)	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	0
月末在籍者数(人)	10	10	10	10	10	9	11	11	10	10	10	10	121	10
延利用者数(人)	71	73	81	86	85	76	80	85	62	67	63	80	909	76
1日平均利用者数(人)	3.6	3.7	3.9	4.3	4.5	3.8	3.8	4.3	3.1	3.5	3.3	3.8	45.4	3.8
利用率(%)	23%	23%	26%	27%	26%	25%	25%	28%	19%	21%	23%	25%		24%

サービス終了者の進路

一般就労	法人内の別事業を利用	他法人の事業所を利用	入院	家族と同居	単身生活	その他	合計
0			0		0	2	2

【生産活動】

1) 雑貨

平成29年度事業計画作成時には、『最低12万円の収入を見込んでいる。』と計上した。実際には、20万円以上の収入があり、平成28年度と比較すると約2.7倍増額している。

増額した背景として、上記にも記載したが『工賃向上に必要な視点と知識』を有効的に活用した成果である。地域課題の抽出に努め、地域の方と農福連携を行うことで、農作物(果実含む)の自主商品化に繋がった。ただ、収入面の課題としては、消費期限が限られているため、廃棄商品も多く生じている。よって、農作物(果実含む)を最大限に生かせるようドライフルーツにするなどの二次加工を行う工夫が求められている。平成29年度においては、備品(電気乾燥機)の購入を検討している。

自主製品の販路については、委託販売先の開拓にも努めた。結果、1店舗新規獲得している。店舗への納品については、利用者の方にも一緒に行き、その中で他社製品も見ながら共に商品開発に取り組んだ。共に行うことで意欲向上にもつながった。ただ、1店舗は、売上金額が少ないということで撤退を余儀なくされた。

2) 業務委託

業務委託には、『清掃』『洗車』『代行業務』の3種類がある。

『清掃』については、契約を更新していただけるよう質の向上に努めた。

『洗車』は、契約を更新して頂けるよう質の向上に努めた。また、ユニフォームを着用して従事しているため、その様子を見られた方からもご依頼を頂くなど、活動の場が広がってきている。今後も質の向上を図り、顧客満足度が高まるよう努める。

『代行業務』は、ユニフォームを着用して従事している。そのため、直接地域の方からご依頼を頂くことが増えている。代行業務を通じて従事する利用者も自信回復につながり相乗効果が生まれている。以前であれば、代行業務に係る声掛けを行うと躊躇される方もおられたが、現在では、従事することに意欲的な方が増えてきている。今後も幅広く広報活動を行い、柔軟に対応出来るよう努める。

3) 下請け作業

利用者が『作業項目の選択』を行うことが出来るよう、地域企業から下請け作業が頂けるよう努めた。

【人材育成】

1) 取組内容と成果

平成29年度は、各事業所の課題となっている事柄に着目し、研修、先進事業所やこれから取り組みたいと考えている農福連携に関する先駆的なことをしている企業等への視察・見学を行った。

研修で学んだことについては、日々の支援で活用し、利用者の生活安定や通所率の向上に繋がったと解釈している。また、農福連携に関する遊休地の活用や気候に応じた作物の取り組みについては、視察を通じて、まだ検証段階であり、情報等の整理が必要と感じた。

その他、日々の利用者とのかわりから、因島・瀬戸田地域のニーズについて、各部会へ発信することが出来た。まだ、社会資源の獲得までには至っていないため、引き続き社会資源の獲得に努める。

2) 主な研修実施状況、参加状況

- ・4月26日、平成29年度第1回広島県強度行動障害支援者養成研修(インストラクター会議派遣):1名
- ・6月6日、発達障害支援基礎研修:1名
- ・6月21日、27日～28日、平成29年度発達障害支援スキルアップ研修(相談):1名
- ・5月23日、職場内研修(虐待):4名
- ・7月20日～21日、平成29年度第1回広島県強度行動障害支援者養成研修(実践研修)(インストラクター派遣):1名
- ・8月23日、平成29年度第2回広島県強度行動障害支援者養成研修(インストラクター会議派遣):1名
- ・8月24日～25日、31日、平成29年度就業支援基礎研修:2名
- ・9月12日、工賃底上げ研修:1名
- ・10月3日～4日、平成29年度第2回広島県強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)(インストラクター派遣):1名
- ・10月16日、工賃底上げ研修:1名
- ・10月25日～26日、平成29年度発達障害支援スキルアップ研修(成人期支援):1名

- ・10月26日～26日、平成29年度広島県サービス管理責任者等フォローアップ研修:1名
- ・11月14日、工賃向上実践報告研修:1名
- ・11月15日、広島県サービス管理責任者研修(共通):1名
- ・11月15日～16日、平成29年度第2回広島県強度行動障害支援者養成研修(実践研修)(インストラクター派遣):1名
- ・12月5日、職場内研修(虐待):3名
- ・12月7日、平成29年度広島県農福連携による障害者の就労促進事業 農福連携推進セミナー:1名
- ・12月20日、平成29年度広島県障害者虐待防止・権利擁護研修:1名
- ・12月21日～22日、広島県サービス管理責任者研修【地域生活(知的・精神)分野】:1名
- ・1月9日、尾三圏域研修:1名
- ・1月11日～12日、広島県サービス管理責任者研修(就労分野):1名
- ・1月15日、工賃向上計画策定研修:1名
- ・1月15日、工賃底上げ研修:1名
- ・1月19日、平成29年度第3回広島県強度行動障害支援者養成研修(インストラクター会議派遣):1名
- ・2月14日～15日、視察(大宜味シークワサーパーク、CAFE ASSOCIA):3名
- ・2月19日～20日、平成29年度第3回広島県強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)(インストラクター派遣):1名
- ・2月19日～20日、平成29年度第3回広島県強度行動障害支援者養成研修(基礎研修):2名
- ・3月9日、平成29年度広島県強度行動障害支援者養成研修(インストラクター総括会議派遣):1名
- ・3月14日～15日、FACE to FUKUSHI 主催の新卒向け福祉就職フェア:1名
- ・3月26日、平成29年度指定障害福祉サービス事業者等集団指導研修:1名

3) 実習生等受入

- ・なし

【各種行事、地域との交流事業等】

- ・4月16日、グラウンドdeマルシェ(自主製品販売実施):職員2名
- ・8月19日、ひだまり夏祭り(自主製品販売実施):利用者1名、職員2名
- ・10月6日、ふれあい合同面接会:利用者5名、職員2名
- ・10月15日、おのみち福祉まつり(自主製品販売実施):職員1名
- ・10月29日、重井公民館祭(自主製品販売実施):職員2名
- ・11月5日、であいまつり(自主製品販売実施):職員2名
- ・11月12日、尾道市民健康まつり(自主製品販売実施):職員1名
- ・11月18日、フットサル交流会:利用者3名
- ・11月18日、瑠璃の屋形直売市感謝祭(自主製品販売実施):職員1名
- ・11月29日、精神保健福祉ボランティアコスモス主催クリスマス会:利用者4名、職員2名
- ・12月12日、日本政策金融公庫より見学:2名
- ・12月14日、消防総合訓練(消防署員立会)
- ・12月20日、あいサポートアート展観覧:利用者3名、職員2名
- ・12月27日、消防教育
- ・12月28日、もちつき
- ・2月7日、尾道特別支援学校高等部「企業・施設の参観日」:職員1名
- ・3月14日、青山病院交流会:利用者3名、職員2名
- ・3月20日、利用者胸部検診:利用者4名
- ・地域自立支援協議会(年6回):職員1名
- ・相談支援部会(年6回):職員1名／相談支援部会から派生したワーキング部会(年9回):職員1名
- ・生活支援部会(年3回):職員1名
- ・就労支援部会(年4回):職員1名
- ・清水基金(障害者の就労に係る係る車両整備助成)に申請するも落選。